



頑張れ!!西部青年中央会バスケットボール同好会!!

今年も始まりました!バスケット同好会が1年に1回だけ熱く燃える公式試合の境港市民リーグです。日程は9月5日から毎週火曜日の夜、約2ヶ月にわたって熱戦が繰り広げられます。我がTSCバスケット同好会メンバーは事前練習を経て、万全の体制で試合に臨んでおります。すでに予選リーグ全戦が終わりました。結果は恒例によりポロポロなのですが、メンバー全員、怪我も無く元気で戦っております。我がチームの特徴は、全員参加の精神をもって楽しく真剣に戦う(気持ちで戦う!!)ことをモットーとしております。日頃から蓄えたアルコールによる内臓脂肪も適度に燃焼し、試合の晩はうまい生ビールをたらふく補給することを繰り返しやってしまう…学習能力が足りず、参加チームの皆様から半ばあきれられている僕たちですが、これからも楽しく真剣に事故無く戦って行きたいと思っております。これからもよろしくお祈りします。

(記事:政治行政委員会 岩崎康朗)



9月度委員会報告

総務委員会

平成18年9月6日(水) 於:ホールサムインかいけ 出席者/10名
議題・事務局運営について
事務局に行った事のない人は行ってみよう!
・会員拡大の為のツール作成について
見やすく、分かりやすく、また中央会の魅力を伝えやすい物を作成したい

エコチャレンジ委員会

平成18年9月8日(金) 於:米子ニューアーバンホテル 出席者/10名
議題・環境勉強会 テーマ「地球環境問題と私達一人一人ができること」
講師:鳥取環境大学 環境政策学科 教授 衣川益弘氏
1. 飽食日本が抱える環境負荷 2. 地球温暖化問題
3. 日本の環境問題及び企業の環境への取り組みには、大きな3つの波がある。
4. この地球を子孫に残す為にも、我々がやらなければならないこと。

メディアコミュニケーション委員会

平成18年9月6日(水) 於:ホールサムインかいけ 出席者/10名
議題・ハンサムについて 紙面記事担当振り分け
・HPについて ファイルボックス復旧の再上程、HP推進チーム結成
・カメラ使用について 講習会開催

ビジネス交流委員会

平成18年9月5日(火) 於:中華料理 大和 出席者/8名
議題・OB交流例会について
講師はリクルートの井上氏に決定
OBの出欠確認、例会の内容などの検討

政治行政委員会

平成18年9月11日(月) 於:ホテルサンルート米子 出席者/12名
議題・9月担当例会について

「米子駅周辺の近未来像」 講師:赤澤亮正衆議院議員
当日の各個人のタイムスケジュール等の確認

・勉強会 「米子駅の現状と新駅の構想」

講師:JR西日本米子支社次長 半田 真一氏

わくわく発掘委員会

平成18年9月9日(土) 於:弓ヶ浜キャンプ場 出席者/11名
議題・日野川うなぎ釣り、中海クルージング、シジミ採り体験の報告と反省
・キャンプ、キス釣り体験
・今後の委員会活動の検討

地域スクラム委員会

平成18年9月7日(木) 於:米子食品会館 出席者/8名
議題・11月担当例会について
例会の目的、形式 講師候補者のピックアップ
・9月20日(水)に臨時委員会開催

夢委員会

平成18年9月11日(月) 於:ホールサムインかいけ 出席者/9名
議題・新入会員オリエンテーションについて
事業目的:新入会員の方に、当会でしっかりと活動してもらえるようにする
事業内容:新入会員の方に「聞いてもらう」を少なくして、互いに語り合う時間を増やしたい

※役員会、連絡事項、会員拡大の件は各委員会とも行われています。

詳細については各委員長までご参照ください。

10月役員会報告

10月定例役員会が平成18年10月2日(月)、米子食品会館にて開催されました。

当日の主な議題は以下の通りです。

- ・9月例会報告の件
- ・10月OB交流例会開催の件
- ・ホームページ修復の件
- ・その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

10月OB交流例会案内

と き:平成18年10月16日(月)
18:30~開会

ところ:米子全日空ホテル

第1部 講師:(株)リクルート 井上 功氏

講演:『強い組織づくりの秘密』

~リクルートの現場マネジメントのポイントとは?~

第2部 OB交流懇親会

担当:ビジネス交流委員会

10月ハンサム編集後記



秋も徐々に深まりつつある今日この頃。皆様の協力と委員会メンバーの頑張りで9月、10月とハンサムを発行してきました。少しずつ取材、記事にも慣れてきたようです。9月から例会が32期各委員会の担当となり、それぞれの委員会の取り組み、特徴が出てくるようになります。毎月ハンサムのトップ面に取り上げていきますので、的確に例会内容が伝わるようにしていきたいとおもいます。現役会員、OB会員の皆様今後とも取材、記事等のご協力をよろしくお願いいたします。(記事:委員長 景山)

Hands&me

発行人:鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 福田一哉

編集責任者:植田寿雄

制作・編集:メディアコミュニケーション委員会

印刷所:東京印刷(株)

9月例会開催 ～米子駅周辺の近未来像～



平成18年9月15日(金)ホテルサンルート米子において政治行政委員会担当による9月例会が開催された。

福田会長は冒頭の挨拶で「ひと昔前、米子は他の山陰の街に比べるといろいろな物が揃っていたが、今ではどこの街も発展し大きく姿を変えた。これからは市町間競争に負けないように、我々青年中央会が核になって問題提起できるように取り組んでいきたい。」と思いを述べた。

委員長タイムは夢委員会の『侍』後藤委員長。時折、ギターを片手に自作の歌をつくることがある後藤委員長は「マイウェイ的な歌を作っている時、後悔の詩が出てくる事が多い。こりゃダメだと思って、何でも悩んだらやっつけてしまおう。昔の頃のように……。そう思ってきたらイイ感じに生きてこれた。曲はまだ出来てないがこれから作っていいいなあ。」と発表された。



今回の例会は講師に衆議院議員赤澤亮正氏を招き、米子駅のバリアフリー化をメインに駅南開発構想をテーマとして開催された。政治行政委員会牧田委員長は趣旨説明で米子駅と鳥取、松江、出雲などの周辺駅の様子をスライド上映し「山陰の周辺駅と比較して米子駅の現状を知ってほしい。」と説明した。

講師の赤澤氏は運輸省時代に駅にエスカレーターやエレベーターをつけることに一生懸命取り組んでいた経歴を持つ。そんな赤澤氏は鳥取駅、松江駅など周辺の駅の整備が進んでいく中で「米子駅を整備しないことはありえない」と語った。

それではいったいどんな駅をつくるのか? ……赤澤氏は観光客を呼べる駅にするのが基本ではないか? 大きな駐車場をつくる。南北一体でバリアフリー化されたエスカレーター、エレベーターをつくる。ショッピングセンターをつくるなどして、観光客がそぞろ歩きできるような快適な空間を構築することが重要だと続けた。

その1つの可能性としてオランダで駅がサッカー場になっている例をあげた。駅にサッカースタジアムがあるので試合観戦は鉄道でやってきて手軽に観戦できる上、遠方からでも駅の周りの宿泊施設に泊まりながらそぞろ歩きもできるという。

さらに赤澤氏は「米子駅には大きな操車場があり、本気でやる気があれば米子駅にサッカースタジアムをつくることは物理的に可能である」と語った。「現在、Jリーグを目指すSC鳥取がJ2に昇格すれば本拠地に1万人以上が入れるスタジアムが必要になる。しかし米子には東山競技場(約2000人収容)があるだけ。一生懸命応援してもJリーグに昇格した時点で本拠地を他の街に変えなければならない事態となる。そういうことから米子駅にサッカースタジアムをつくる構想も選択肢の1つとしてみてもいいのでは」と語った。

赤澤氏は講演を通して「地元のことは地元人間が考えるのが一番。夢のある米子駅の開発プロジェクトをどんどん提案して行ってほしい」と締めくくった。

山陰の周辺駅の様子を見る限り、明らかに米子駅より《目的、テーマ》を持って街づくりが成されていると感じた。高架化、橋上駅構想、バリアフリー化、駅周辺再開発等、米子が栄えるためには通らねばならない課題であろう。

(記事:安岡、本池)





委員会 BunBun 訪問



～ 委員会は会議室だけでやっているのではない… 現場でもやっているのだ!! ～

● エコチャレンジ委員会 ●



平成18年9月8日(金)米子ニューアーバンホテルにおいて第3回エコチャレンジ委員会が開催された。「地球環境問題」という大きなテーマに取り組んでいる木下委員長率いるエコチャレンジ委員会。本日は鳥取環境大学から衣川益弘教授をお招きし、環境問題についてご講演いただいた。

衣川教授は鳥取環境大学へ入られるまでは「ソニー厚木テクノロジーセンターで社員総務部安全環境担当部長」を歴任され、専門は「ISO14001・環境監査・安全衛生」など多方面にわたる環境問題のプロである。これからの若い世代へ環境問題を伝えて行く事こそ自分の使命と鳥取へ来られたということである。

当日の講演テーマは『環境問題と私達一人一人ができること』と題し、今現在私達ができること、すべきことを細かく説明いただいた。今、環境問題は公害問題の第一の波、オゾン層の問題などの第二の波につづき、環境経営という第三の波がきている。環境問題に取り組まない企業が淘汰されていく中で、今まで売れていた商品が売れなくなる時代が来ている。グリーン購入法が施行され、市場を通して企業の環境経営・商品開発が促進されていることなど熱く語られた。中でも、『われわれの世代のバランスシートには利益が計上されるかもしれないが、子どもたちは確実に損失を受け継ぐことになるだろう。』という言葉が深く印象に残った。

ちなみに、一年間で消費されるスーパーのレジ袋は305億枚とのこと。これは原油換算で何万ℓになるのでしょうか？答えはエコチャレのメンバーに聞いてみよう!!

(記事：岩田)



● わくわく発掘委員会 ●



平成18年9月9日(土)～10日(日)に美保湾展望台においてわくわく発掘委員会9月委員会が開催されました。

今回は一部と二部に分けて行われ、一部では役員会報告、二部ではキャンプ・キス釣り・砂風呂体験を企画しました。

当日はあいにくの天候で(開始とほぼ同時に激しい雨が降り出し)砂風呂体験は中止となりましたが、キャンプ・キス釣りは予定通り行われ、少々小振りでしたが20～30匹釣れ、すぐにフライにして食べました。

今回は一人一品の食材を持ち寄る様にしていたのですが、地元産のものに限定してみたら、おもしろかったのではないかと後になって思いました。

他の委員会からも多数参加して頂き、今後の中央会活動の話で盛り上がり、あっという間に時間が過ぎていきました。

最後は来たときよりも美しくということで、各自ゴミ袋を手に清掃し解散しました。

今後もわくわく発掘委員会ではキノコ釣り等、楽しい内容の活動を企画しております。参加は自由ですので、興味のある方は気軽に参加してください。

(記事：森田)



われら卒会 ～32期中央会卒会の年を迎えて～

村岡 誠一 会員

わずかに籍3年で卒会しなければならない、この無念… 思い起こせば8年前、中部青年中央会に入会したことで、大きく人生が変わってしまいました。平凡な会社員として、草食動物のように生きていたのに、ゆっくり水飲み場へ行くことも出来なくなってしまいました。西部青中に転籍してからは、会員の貪欲さにショックを受け、チームゴリエにショックを受け、朝日町での散財の翌朝ショックを受けつつ、今の自分があるのです。縁あって入会させていただいた本会は、他団体にない魅力が十分です。自ら仲間作り、ビジネスにチャレンジしていけば、何か明るい未来が開けてくるような気がします(妄想かもしれませんが)。波乱万丈の人生を共有できる仲間たちと共に、余命9ヶ月を安らかに過ごしてまいります。



12年前、職場の研修旅行で、ハワイに行きました。既婚男性2名と独身女性2名の旅でした。先々で、新婚カップルに間違えられました。変!



第29期卒会 足立 徹OB

Q. 入会当時の中央会はどうでしたか？

A. 始めの2~3ヶ月は、本当に右も左も分からない状況だった。阿部会長(21期)の話し方、話す内容がすごくかっこよかった。会長に限らず、当時は「豪傑」がたくさんいたと思う。仕事に限らず人間的にも刺激を受けた。

Q. 中央会での活動は？

A. たいへんだった反面、やっていて非常に楽しかった。委員会の団結力は今よりも強かったと思う。いろいろな活動に対して、一致団結して取り組み、時間を共有するなかで連帯感が生まれ、また活動自体も楽しくなっていった。もちろん、楽しいのは委員会だけでなく二次会もほとんど休んだことはなかった。…代行代はとんでもなかったけど(足立OBは境港在住)。

Q. 現在の会員に対するアドバイスをお願いします。

A. 人間関係、とくに横だけでなく縦の関係も大事にして、相手のことを考えることを学んで欲しい。ただ漫然とではなく、自分から踏み込んで活動していくべき。もちろん活動自体には真剣に取り組んでいかなければならないが、そのためには楽しむことが必要だし遊び心もあっていい。その結果として、それぞれの仕事自体にも役立つ大きなものを得ることができると思う。また、各委員長は「俺についてこい」というくらいの気持ちで引っ張って行って欲しいね。

足立OBには、市位OBのご紹介でご登場いただきました。最初は「自分でいいの？」と謙遜されながらも、取材がすすむにつれ足立OBの中央会に対する熱い思いがひしひしと伝わり、休日にもかかわらず約2時間もお付き合いいただきました。ありがとうございました。

次号は足立OBよりご紹介いただいた〇〇〇Bの方へ訪問いたします。(記事：杉山)



山本 克美 会員

皆様こんにちは、総務委員会の山本です。先日このテーマについて文章を…と依頼がきました。『Try&Challenge』自分なりの言葉に直

すと『やってみてなんぼだわい!』って感じです。今までしてきた事のほとんどがこの言葉にあてはまるような気がします。

元タピッときたらパッとやっってしまうないと気がすまない性格です。思いだったら実行って感じで今のカーオーディオの事業・ホームシアターの事業・イベント運営、中央会入会の時などもそんな感じでした。もちろん何かをやるときは、綿密な計画を立てるのですが、その調子なので失敗があることも無きにしもあらず、失敗は成功の基と思いがんばってみる事にしています。

カーオーディオの事業を立ち上げる時、その頃はまだメジャーではなく、近くにプロショップも無く、周囲からは「なんかそげなことして食っていけーだ」などと言われましたが、なんとか食べるレベルになり、カーオーディオのイベントでも上位に入賞できるくらいになりました。確かにそこまで行き着くには色々失敗や悔しい思いなどたくさん経験はしてきましたが、今後も決めた事に対しては何事にも情熱を持って挑戦していきたいと思っています。



県青中の動き



《県出向研修会開催》

平成18年度県出向研修会が9月22日(金)~23日(土)西伯郡南部町緑水湖研修センターにおいて開催された。講師に鳥取県教育委員会事務局高等学校課指導主任の松川明義氏をお招きし、県内の高等学校におけるインターンシップの現状と今後の提案についてご講演をいただいた。

はじめにオブザーバー出席の中部青年中央会加藤監事より、以前から実際に活動されてきた職場体験事業等について経験談を聞き現状把握をおこなった。つづいて松川氏より高校生の求職・求人・就職状況から資料に沿って説明がおこなわれた。求職希望者は前年度と同数で卒業者に占める求職者の割合は前年度に比べ上昇しているが、県内求人数は前年に比べ実数で229人減少しているとのこと、これは地方企業の景

気背景が明らかにわかる数字である。逆に離職状況を見ると就職して3年後の離職率が50%強と驚く現状を知りました。様々な原因のひとつに就職先をよく理解しないまま入社し3年経って辞めていくケースが最も多いらしい。当然、生徒自身の問題もあるが学校側も生徒に紹介する企業をよく理解しないまま送り出していることも確かなようだ。そこでインターンシップをおこない、体験先企業で事前に社会勉強をすることにより、早期離職の歯止めをかけることをひとつの目的として取り組んでいるが、これも現状は学校側と受け入れ企業側との連携が万全に取れていないのが現状のようだ。

講演終了後、時間の都合で質疑応答は懇親会会場にておこなわれたが、アルコールが入ると様々な意見が活発に飛び交い、時間も忘れ深夜まで有意義な研修会が行われた。

(記事：県出向理事 北口智明)

